

# インフルエンザワクチン

## 当初入荷量 昨年比減 8割

インフルエンザワクチンなどの供給をめぐり大阪府保険医協会が実施したアンケート調査（11月15日まで）に回答を寄せた府内470医療機関の85%（397件）が「当初入荷量が昨年より少ない」と答え、その8割は昨年の6〜8割の入荷量だとしていることが、3日までに分かりました。

同ワクチンの「入荷のめどが立たない（少しずつしか入らない・在庫ゼロ）」と回答したのは144件でした。「すでに入荷」（17

1件）、「12月までに入荷予定」（147件）と回答した医療機関のうち、「追加がこない」「現在ゼロ」とした医療機関がそれぞれ12件ありました。

同協会は、「11月上旬時点では全体として不安定な状況がうかがえる」と指摘します。

同アンケートでは、製薬企業の相次ぐ業務停止などで供給不足が大きな問題となっているシエネリック（後発）医薬品についても調査しました。

## 大阪府保険医協会が調査

約8割の医療機関が「現在、納入がなくなった（減った）、薬局に在庫がないなど」といわれた医薬品がある」と回答。骨粗しょう症に関する薬など175品目の医薬品名が具体的に上がっています。

供給不足は医療現場にさまざまな影響を及ぼしています。たびたび薬剤が変わることへの患者の不安に対し説明する時間が増えた▽薬局からの問い合わせや代替薬の検討など業務の負担が増え診療に影響している一など

の音が寄せられました。

同協会は1日、インフルエンザワクチンとシエネリック医薬品の安定供給を求める緊急要望書を厚生労働相に送付。政府の責任で、安全性が確保された医薬品が安定供給されるよう早急に対策を講じることを求めています。

希望者が同ワクチンを接種できない状況になっていると指摘し、毎年必要量を11月中には供給できるよう、供給のあり方の見直しを提起しています。